

【浦安地区】地方創生意見交換会（結果）

日時：平成 27 年 6 月 15 日（月） 19：30～21：00

場所：浦安地区公民館 研修室

1. 参加者	参加者 20 人、職員 4 人（小松副町長、遠藤企画情報課長、山根、佐藤）
2. 開会	小松副町長（あいさつ） 遠藤課長（資料の説明）
3. 主な意見	<p>●コトウラで育む</p> <ul style="list-style-type: none">・結婚しない若者が増えたのは、女性が働いて自立できる社会になったこともあるのではないか。・結婚し生活していくには所得が必要であり、収入が少ないから結婚できないし、子供も作らない。・一人のほうが楽という若者も増えている。・結婚しない方が増えたのは賃金が少ないということだけではない。・鳥大付属病院の勤務を希望する看護師が県内外から多いのは子育ての環境が整っているからである。・サービス業などに勤める方もあるので、24 時間保育や土日も預けられるような体制があってもいいのでは。・保育料 3 人目無料、保育料 2 人目半額免除は生ぬるいので、もっと大胆に一人目から無料しては。若い人に向けてのインパクトがない。・子育て世代への助成だけでは住む人はいない。・お見合いのような形式で男女が知り合う機会を作ったほうがいい。 <p>●コトウラで創る</p> <ul style="list-style-type: none">・地域に働く場がないと、その地域に活力が生まれてこない。・主たる産業である農業が衰退しているので、集中的に支援し発展させることが必要。・山陰地方は災害が少ないので誘致は進めたほうがいい。・医療現場が足りないので、医療施設と学校をセットで誘致すれば人口も増える。・児童福祉施設や刑務所をつくり、働く場を創出する。・メタンハイグレードの工場を誘致する。 <p>●コトウラで輝く</p> <ul style="list-style-type: none">・ことうらに住んでる人が楽しんでいれば、住みたくなる人も増えるのではないか。・人口が減っても、まちが元気であるような方策を取り組んでいかなければいけない。

●コトウラに根づく

- ・所得が少ないからことうらに住みたくても収入が多い都会へ出て行ってしまふ。
- ・家賃助成など住まいに対する助成がなければ転入人口は増えないのではないか。
- ・大学などで県外に出た若者に、Uターンを促すようなPR、施策が必要。手紙などを出すのもひとつの方策である。
- ・安定した生活が営まれるような基盤があれば人口は増えていくのではないか。
- ・琴浦町の強みをいかし、それに関連する人を誘導するということがなければ、琴浦町には移住定住はない。
- ・IJよりUターン施策にとりくむ。琴浦町が大好きという人を多く増やすような教育が必要。地域でのふれあいを増やせば、大人になってまたその地域に戻ってくるのでないか。

4. その他

- ・収入が少ないのであれば、税金を安くしたり、子供にかかる経費を補助するなどの検討が必要である。
- ・いま何が問題でどこにメスを入れたらいいのかを考え取り組まなければならない。
- ・最初に人口の目標がないとダイナミックなアイデアは出てこない。
- ・中山間対策として、3世代同居する世帯に対し何らかの助成が必要ではないか。
- ・町営住宅の入居者募集の際に、高齢者優先といった制約をつける場合があるが、そうした結果その住宅に高齢者しかおらず、コミュニティーとして成り立たない状況がある。ひとつの町のようにいろいろな人がいるようなものにするべきであると思う。
- ・地方創生、人口減少問題がどこか他人事になってしまっているのではないか。まず自分の身近な問題として町民みんなが考えなくてはいけない。
- ・まちの活気がないので、そこから対策を始めていく。
- ・空き校舎、荒廃農地を活用したまちづくりを進めていく。
- ・情報発信能力の優れた人を町に誘致し、PRしていく。